統　計　雑　感

茨城県議会議長
関　宗　長

近代社会の中で政治，行政は勿論，経済，産業等すべてが複雑多岐，高度化してある現状においては，基礎的データというものが，非常に重要視される。世はまさにコンピューター万能時代に突入しようとしているけれども，そのコンピューターに入れるためのソフトウェアーはやはり統計学による数字が，基礎とならなければ，コンピューターから得られる指示，予測というものは，現実とかけ離れたものとなってきてしまう。

そこでコンピューターを使う場合，基礎的なデータ資料というものを，いかに組織化し，アレンジするかということが，重要視されるわけであり，ここにおいて統計がその主導性を発揮するわけである、

近年，情報化社会の進展にともない統計に対する政治，行政，産業，経済の依存度は，ますます増大しつつある。ところが，過去における統計というものをふり返ってみると，一部の人達のものとして存在していたような傾向が強く，従って一般住民のこれに対する関心は，非常に浅かったような気がする。

詳細に，吾々が日常の生活をふり返ってみる時，例えば，政治面での政策の決定，経済上のマーケッテイングリサーチ等の基礎となるものは，やはり統計であっていかに統計のデータにもとづく資料によって，便益を与えられているか，計り知れないものがある。

統計によって与えられるあらゆるデータを活用して，吾々は10年後，20年後のあるべき姿を画くのであって，統計を無視しては将来を予測し得ない現状である。

さて，統計業務というものは，一般的には，非常に地味な時間のかかる，しかも足でかせがなければならない仕事なので，基礎となるデータを収集し，整理する人達の苦労というものは，並々ならぬものであろう。したがって，統計に対する社会全体の関心をたかめ，統計業務が円滑に進められるよう組織，体制というものに，常に検討を加える必要がある。

くり返しになるが，近代社会を築いて行く上において最も重要なものは，統計業務であり，ますますこの仕事が拡充，強化されることを，私は心から期待するものである。